

令和6年12月27日発行
ISSN 0918-9173

福岡県保健環境研究所年報

第51号

令和5年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute
of Health and Environmental Sciences
No.51 2023*



福岡県保健環境研究所

福岡県行政資料	
分類記号	所属コード
MA	4404504
登録年度	登録番号
06	0001



はじめに

当研究所は、令和9年度に供用開始を予定している「ワンヘルスセンター」の中核施設として、多分野の専門家と連携して、「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」が互いにどのように影響し、支え合っているかを科学的に考察し、これらの持続的な調和や最適化の方法を様々な観点から総合的に探究する「ワンヘルス研究」に取り組んでいます。

具体的には、環境DNA技術を用いた野生生物調査方法に関する研究では、野生生物の生息状況を把握するだけでなく、人獣共通感染症対策への活用も目指して取り組んでいます。また、薬剤耐性菌に関する研究では、愛玩動物の薬剤耐性菌保有状況の把握に取り組むとともに、水環境における薬剤耐性菌と抗生物質等の化学物質の汚染状況の把握にも取り組んでいます。

令和5年度の当研究所における分野ごとの主な出来事や取り組みについて御紹介します。

保健科学分野では、令和5年5月8日に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、「新型インフルエンザ等感染症(2類相当)」から「5類感染症」に変更されました。このため、当研究所では、5類移行後も新型コロナウイルス感染症に対応できるよう、ゲノム解析結果を用いた感染源・感染経路等の解析に積極的に取り組みました。このほか、令和2年度に後発医薬品メーカーで発生した品質不正問題によって、本県においても医薬品の品質に対し不安が高まったことに対応して、継続して品質試験に取り組みました。

環境科学分野では、令和5年7月に、筑豊地方や筑後地方を中心に記録的な大雨を観測し、2年ぶりに「大雨特別警報」が発表され、多数の浸水被害や土砂災害が発生しました。これは地球温暖化が原因の一つと思われ、大雨災害の常態化が懸念されています。加えて、夏季には暑さ指数(WBGT)の上昇に伴い熱中症搬送者数が増加傾向にありました。このため、当研究所内の気候変動適応センターでは、ホームページやSNSを使って熱中症に関する情報を積極的に発信しました。このほか、大気シミュレーション技術の開発、大気中の紫外線吸収剤の分析法開発、藻類による安全性試験方法の開発、リサイクル製品開発における安全性試験や分析法開発など、多岐にわたる研究に積極的に取り組みました。また、当研究所の職員が「堆積物微生物燃料電池を用いた底質改善方法及び底質改善装置」の特許を取得しました。

今後とも、国内外の研究機関等との連携を図り、ワンヘルスの推進に寄与するワンヘルス研究に取り組んでまいりますので、御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

令和6年12月

福岡県保健環境研究所長 白石 博昭